



# K中通信

学校だより 6号  
令和3年9月16日  
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

## 実りの秋

校長 佐藤 由利

分散登校で始まった夏休み明けの学校生活は、緊急事態宣言の延長に伴って10月1日まで続くこととなりました。そんな中、日中は多少蒸し暑く感じられることもありますが、朝夕の風は涼しく、季節は秋へと移り変わってきています。「秋」という言葉は、よく最初に何か言葉を付けて「〇〇の秋」と表現されます。皆さんは、どんな「秋」を思い浮かべますか？私は、「実りの秋」「創造の秋」を思い浮かべました。（「実り」は、作物が「実る」だけではなく、もう少し広い意味で考えてください。）

夏休み明けの放送集会では、「しばらく我慢の時が続きますが、ぜひ協力してください。」とお話しました。実際、分散登校の今、思うように友達と交流することも出来ず、授業での活動も制限があって、皆さんも先生方も「我慢」が続いています。皆さん、日々の生活にも気をつけて、本当によく協力してくれています。そんな皆さんの姿を見ながら、こんな時だからこそ、「これができない」という思いばかりにとらわれることなく、「何ができるか」「どうすればできるか」と考えていきたい、と思いました。

学校でも、今この状況で対面の授業以外にどんなことができるか、ということを考えて、オンラインでの学習や授業に取り組んでいます。行事についても、その他の活動についても、「何ができるか」「どうすればできるか」と考えていきたいと思っています。「今まで通りにできる」ことは少ないかもしれません。けれど、これを機に、新しいアイデアをたくさん集めれば、「今までの代わり」ではなく、新しい何かを生み出すことができるはずです。そういう意味で、軽井沢中の今年の秋は、「実りの秋」「創造の秋」になったらいいなあと思っています。

今の分散登校が予定の10月1日までで終わるかどうかが、現時点では何とも言えません。幸い、全体的な感染状況は一時期よりも落ち着いてきています。けれど今、学校現場として一番心配されているのは、皆さん中学生を含む10代以下の感染者が増えているということです。全員で登校できるようになったとしても、いろいろな制限の中で活動していかなければならないかもしれません。

そんな中で、皆さんにお願いしたいことは、まず自分の健康は自分で守る、(意識をもって感染予防に努める)そして周りの人への配慮を忘れない、ということです。皆さんはもう中学生です。自分も周りの人も大切にするためには、どんな言動が必要か、考えればわかるはずです。それを一人ひとりがしっかりと実践できるようになってほしいと思います。そして、もうひとつは、繰り返しになりますが、いろいろなことに対して、「何ができるか」「どうすればできるか」を考えてみる、ということです。そうすることによって、皆さんのこれからの学校生活(もちろん学校以外の生活も)が豊かなものになるはずです。ぜひ、実り多い毎日にしていきましょう。